

アフリカ豚熱の診断技術の検証と最適化ならびに ベトナム国における浸潤状況の調査

1. 研究目的（ベトナムとの共同研究）

日本では発生していないアフリカ豚熱 (ASF) には未だ有効なワクチンがなく、その対策には発生国におけるウイルスの侵入経路の解析や流行に伴う遺伝子変異の進行を把握する必要がある。本課題は、ベトナム国立獣医研究所 (NIVR) と共同で、初発から3年を経たベトナム国における**ASFウイルスの遺伝的变化を調べ**、現行の**診断法の妥当性を確認**することを目的とする。

2. 研究概要・研究体制

① ベトナム国内でASF発生時に取得した試料を用いて、現在日本国内で利用されるASF診断法の適合性を検証する。

[試料提供：ベトナム、検証：共同]

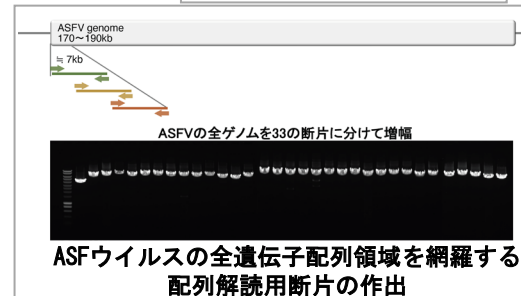
② 検証結果に基づいて診断法の仕様を改良する。
[日本]

③ ASFウイルスのすべての遺伝子配列を解析し、流行地における経年の遺伝子配列の変化と病態との関係を解明する。

[解析法の構築：日本、
ゲノム解析：ベトナム]



NIVRでのASF診断法の実施



3. 将来期待される成果

実地検証に基づくASF診断法の最適化により、国内外での利用促進が期待される。ASFウイルス遺伝子の変化と病態との関係性を把握することで、迅速な防疫対応に資する情報の獲得が期待される。両国の**診断技術、防疫対策の向上**と家畜衛生分野における連携の強化が期待される。